

「ごみを出す」「暮らしから」「資源を生み出す」「暮らしへ

ごみが資源として循環するまちづくりを

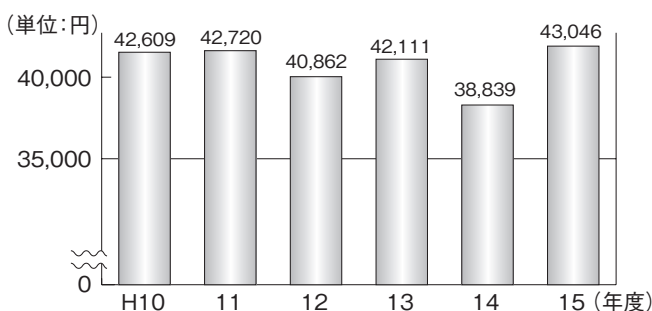
狭山市は平成8年に「リサイクル都市・狭山」を宣言し、ごみの減量化・資源の再利用などリサイクル型社会の構築へ向けた取り組みを進めてきました。その結果、びん・缶・古紙・古布・ペットボトルの分別収集をはじめ、集団回収の奨励や全国初のノーレジ袋デーの実施などにより、リサイクル率は現在約23%になっています。集積所にごみを出せばいつのまにか収集され、焼却して灰となって処理される。豊かさを追求するあまり、当たり前のように続けてきた大量生産、大量消費、大量廃棄の暮らしは、もう過去の話。さらなる資源循環型社会を目指すため、市では生ごみと廃プラスチック類のリサイクル事業を積極的に進めています。今月は、その2つの事業の概要とこれまでの成果をお知らせします。

かさむ経費 ごみ処理に毎日500万円以上が

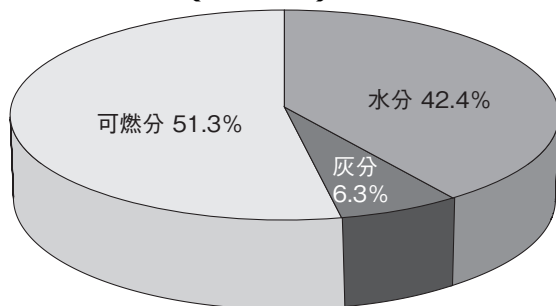
現在、市では1日に125tのごみを焼却処理しています。焼却処理には1t当たり約4万円の経費が必要で、1日にすると約500万円、つまり、国産の高級乗用車1台分に匹敵するお金が毎日かかっているのです。リサイクル率は高くなっても、グラフラ1を見るのごみ処理にかかる経費は減少していないのが分かります。さらに、ごみは燃やすと灰になり、その処理にも

多くの経費がかかります。これらの膨大な経費は皆さんの税金で賄っています。また、昨年9月に第一環境センターを休止したため、現在、焼却処理をしているのは、第二環境センターだけです。そして、最終処分場にごみを焼却した灰を埋め立てられる容積は残りあとわずか。今、ごみを、焼却して処理することからの脱却が早急に求められています。

1t当たりのごみ処理経費(グラフ1)

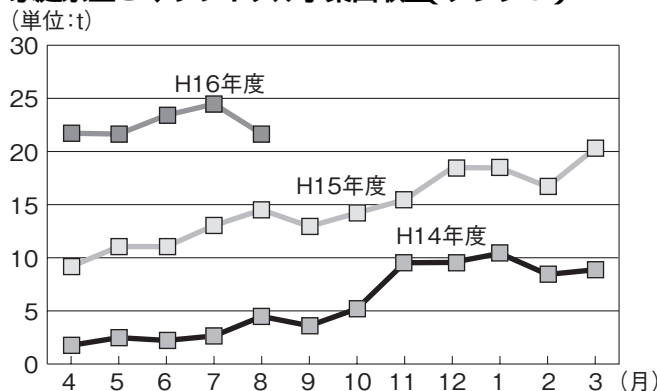


燃やすごみ3成分(グラフ2)

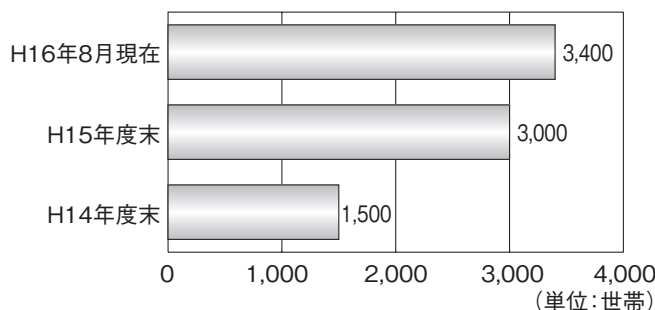


第二環境センター、平成15年度平均

家庭系生ごみリサイクル事業回収量(グラフ3)



生ごみリサイクルの参加世帯数(グラフ4)



狭山市の主なリサイクル事業の流れ

- 昭和63年4月 空き缶、空きびん収集を市内全域で開始
- 平成6年9月 古紙・古布試行収集を開始
- 平成8年1月 半透明・透明ごみ袋による試行収集を開始
- 平成8年10月 半透明・透明ごみ袋による収集を市内全域で実施
- 11月 全国で3番めに「リサイクル都市・狭山」を宣言
- 平成9年4月 古紙・古布収集を市内全域で実施
- 9月 ペットボトルの試行収集を開始
- 平成11年11月 古紙・古布収集を月2回に変更
- 平成12年4月 ペットボトルの収集を市内全域で実施
- 11月 リサイクル工房が開所
- 平成13年11月 全国初のノーレジ袋デー実施
- 平成14年4月 家庭系生ごみリサイクル開始
- 平成15年3月 学校給食センターの生ごみリサイクル開始
- 9月 第一環境センター焼却炉運転休止
- 11月 廃プラスチック類リサイクル事業試行収集開始(水富、狭山台地区・約14,000世帯)
- 11月 毎月2・12・22日の月3日をノーレジ袋デーに
- 平成16年10月 廃プラスチック類試行収集地区拡大(奥富、柏原地区・約6,700世帯)

生ごみを有機資源に

家庭系生ごみのリサイクル事業を開始

市は、従来の焼却処理による環境への負荷を軽減し、最終処分場の延命を図るため、さらには資源が循環する社会を実現するために、生ごみを有機資源としてリサイクルする事業を平成14年4月から開始しました。生ごみは水分を多く含んでいるため、燃やすごみとして処理する場合は焼

却炉内の温度を下げてしまい、ダイオキシン類などの有害物質が発生しやすくなったり、炉を傷める原因になります。家庭から出る燃やすごみに占める生ごみの割合は、約46%です。これらの生ごみを有機肥料として「燃やさない」ことにより、確実に生ごみの減量とリサイクルにつながります。

回収される生ごみは1年で約2.5倍に！

参加する世帯も着実に増加

生ごみリサイクル事業は、この活動を積極的に進める皆さんの協力のもと、平成14年4月に約2,500世帯から始まった参加型の回収事業です。回収した生ごみは24時間でパウダー状の一次生成物になり、肥料会社によって成分調整された後、狭山の生ごみが約20%含まれた有機肥料として、すでに全国に流通しています。さらに、公募によって「ゆづき肥さやま」と名前が付けられ、狭山のプライベートルランドとしても市内の園芸店で個人向けに販売を開始し

ました。そして平成16年8月現在、参加世帯は約3,400世帯にまで増加(グラフ4)し、資源化した生ごみは平成14年度が約70%、平成15年度は約175%、今年度も8月までで約112%の資源化に成功しています。

さらに狭山市の特徴として、排出するときに使用する専用バケツが生ごみの腐敗を防いでいること、そして、皆さんの協力で分別が徹底され、生ごみだけを回収できていることなどの理由で堆肥の質も高くなっています。